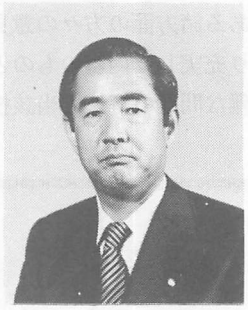
「エネルギー・資源」に望む



㈱野村総合研究所
常務取締役鎌倉研究本部長

酒田　哲

此度，官・学・産の参加による「エネルギー資源研究会」が発足し，同時に機関誌「エネルギー・資源」が創刊されたことは誠に時宜を得たものであり，今後の活動に大きな期待と関心を寄せる次第です．野村総合研究所においても，資源エネルギー問題はこれを一つの境界領域的テーマと考え，過去広範な視点から調査研究を実施してきています．本研究会においても同様の認識に立ち，参加者を広く各界に求め研究成果の増大につとめようとの方針には，賛意を表するものであります．

機会を得ましたので，以下，今後のエネルギー技術開発についての私見と本研究会の活動，機関誌に対する希望の一端を述べてみたいと思います．

エネルギー問題の解決にとって，技術開発が最も重要な手段の一つであることには何人も異論をさしはさむ余地はないと考えます．そして，問題の時間的視野を広げるほど技術開発の重要性は高まるといえます．それは，石油であれ，天然ガスであれ既存の非再生エネルギー（化石燃料）は早晩枯渇する運命にあると考えるからです．この意味で，人類にとってエネルギー問題の本質的解決を図る手段は，極論すれば技術開発による無限エネルギー（核融合など）ないし再生エネルギーへの移行しかないともいえましょう．エネルギー開発の技術問題を研究してゆくにあたって，このような超長期的視点あるいは人類的視点を常に前提とすることが最も重要と考えます．

資源小国日本にとって，エネルギー技術の開発は更に次のような点で決定的な重要性を帯びているといえます．それは，

第一にエネルギーの大宗を占める輸入石油の価格が高騰し，かつ，量的にも国民経済発展の制約条件となりつつあるということです．輸入石油に対する代替エネルギー技術開発の強化は，国民経済の健全な発展にとって不可欠といえます．

第二に，エネルギー資源の圧倒的な入超国であるわが国にとって，石油に代るエネルギー技術の開発に取組むことは国際的な責務ともいえる点です．省エネルギー技術または石油代替エネルギーの開発は消費国全体の課題であり，最大の石油輸入国の一人としてわが国が技術開発を怠るわけにはゆきません．

第三に，人的資源のみが豊かなわが国にとってエネルギー技術の開発は，国際的に将来有利な地歩を占めるための一つの有力な手がかりとなる可能性が認められることです．革新的なエネルギー技術は，現在の原子力技術がそうであるように将来の国際市場における致略商品となる潜在力を秘めておりそれは又資源輸出国に対するわが国の重要なバーゲニングパワーとして作用するものと思われます．

第四に，国民の価値感，生活様式の多様化が進むにつれ，今後エネルギーの方からもそれに対応してゆく必要性が高まる点です．たとえば，地域の特性にマッチしたエネルギー技術の模索は既に始まっています．こうした社会の要請に柔軟にこたえるためには，在来技術の延長のみでなくニーズの変化を正しく踏まえた何等かの創造的試みを必要とします．

エネルギーの分野では既存システムの部分的改良に関わる技術も重要でありますが，それと同時に異なった原理にもとづく全く新しい技術の可能性にも多くの関心を向ける必要があります．そのような萌芽は既に見うけられますが，革新的技術の種をまき，芽を育てる努力はまだまだ不十分であると考えます．以上の視点から，本研究会の設立趣意に対し全面的かつ積極的に替意を表するものです．

こうした努力をより実りあるものとするために，本誌に期待するのは次のような点です．

第一に，対象読者を専門家のみに限定せず，ある程度の巾を持たせることが大切と考えます．それは，啓蒙的性格を多少付与することにより問題の理解層を広げ，そのことが研究対象と議論の内容をも広げることになると考えます．これはエネルギー研究の推進にとって特に重要なことと思われます．

第二に，技術的論文以外にエネルギー問題ないし政策に関する社会科学的視点からの考察，研究報告なども積極的に取り入れて欲しい．これらは技術の独り歩きに対するチェック的機能をも果すと考えます．

第三に，エネルギー研究についての国際的情報を重視して欲しいことです．当分の間，重点をエネルギーに置くとしても，ゆくゆくは食糧など他の資源にまで対象を拡大してゆくこともわが国の立場上重要なことと考えます．

関係者のご活躍を期待いたします．